

「認知症」ってなんだろう？

「認知症」をもっと多くの人に知ってもらいたい。その思いから、活動を続けている皆さんがいます。

市では、認知症の人が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためにさまざまな施策を実施しています。

そのうちのひとつ、認知症への理解を深めるための事業として、認知症サポーター養成講座の開催を支援するほか、その講師役（キャラバン・メイト）の養成を行っています。

認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り支援する応援者をいいます。市では、この認知症サポーターを増やすため、養成事業に取り組んでいます。

認知症サポーター養成講座の講師役を担う「キャラバン・メイト」は市民ボランティア、介護職員、地域包括支援センター職員で構成され、現在約40人が

活動しています。

キャラバン・メイトは、一般市民の方に向けた講座はもちろん、保育所や学校などを訪れ、児童・生徒に講座を開催したり、親子向けに講座を開催するなど、年間40回を超える講座を開催し、「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」に積極的に取り組んでいます。

認知症サポーター養成数、部門日本一に

この取り組みが評価され、昨年度本市は、優良自治体として全国キャラバン・メイト連絡協議会から表彰されました。この表彰は、1年間に養成された認知症サポーター数について、総人口に占める割合の値が最も高い市区町村を表彰するものです。今回、本市は4つの区分

のうち「人口20万人未満5万人以上の部」で日本一に輝き、表彰されました。

2月20日には、キャラバン・メイトの皆さんが小田川市長を表彰訪問し、受賞の喜びを報告しました。



▶キャラバン・メイトの皆さんと小田川市長



1：本市のキャラバン・メイト「認知症？伝え隊」の皆さん／2：小田川市長に活動状況を報告するキャラバン・メイトの皆さん／3：小絹中学校での講座の様子。特殊なゴーグルをかけ、高齢者の見え方を体験する生徒たち／4：親子講座の様子／5・6：保育所での講座では「子どもたちから元気がもらえる」そう。



認知症サポーター養成講座 受講者を募集します！

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けをする認知症サポーターになりませんか？

認知症は誰でもかかる可能性のある病気です。もし身近に認知症の人がいたらそっと見守る・そっと手助けする地域をつくるのが大切です。まずは認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守ることがスタートです。

- 開催日時：5月31日(金) 午前10時～正午
 - 場所：伊奈庁舎2階会議室
 - 定員：30人(定員になり次第締め切ります)
 - 申込先：介護福祉課 ☎58-2111 (内線4305)
- ※受講された方へはオレンジリング(認知症の方を温かく見守る応援者の証)を差し上げます。

ひとりで抱え込まないで、周りに伝えてほしい。

2012年に発足した市民キャラバン・メイトは、24人でスタートしました。当初は高齢者の方を中心に講座を開催していましたが、2015年からは保育所や学校などに出向き講座を行う「出前講座」も始まりました。

発足当初から活動するメンバーの方は認知症の両親を介した経験から「当時は自分に知識がなかったんです。知っていたら、もっと違った接し方ができたのかな」と話します。

キャラバン・メイトの市民グループ代表を務める菩提寺さんは「家族が認知症であることを

隠したがる傾向にあると思います。自分で抱え込まず、ひと言、近所や周りに伝えることで、いろんな人の手助けが得られます。認知症の方を地域で見守る、というようになってくれたら」と笑顔で話してくれました。

いつ誰がなってもおかしくない、身近な病気である「認知症」。まずは認知症を知り、少しでも理解を深めることで、自分に近い人が認知症になったとき、適切に接することができます。

ぜひ、認知症サポーター養成講座を受講して、認知症についての理解を深めませんか。



(写真) 認知症の家族との接し方を、寸劇でわかりやすく伝えるキャラバン・メイトの皆さん